

先月に続いて、「統合医療展」での公開ミチを受け持った内容紹介です。

1980年代の鍼刺激の理解については、NHKテレビ番組だった「ウルトラⅣ」や「クローズアップ」などで取り上げられ注目されていました。

1982年の番組「ウルトラⅣ」で「ハジ・灸はどのように体に効くのか」というタイトルで山川静夫氏（番組司会者）が筋肉の緊張を促すために丸一日身体にスリッパを付けて生活。

筋肉の「コリ」を作り出し、ハ刺激でその筋緊張が改善することを実験。

その評価方法は「硬度計の数字」で「加速度計の波形」を使用したものでした。

また、岡田スミ氏（番組アシスタント）が気分をリラックスするためにクラシック音楽を聴いている時の「脳波」と金具で鉄板をつかいた時に発生する耳を塞いでしまうような雑音を聞いた時に発生する「脳波」と、ハ刺激時の「脳波」を比較する実験も紹介されました。

結果は、ハ刺激時の脳波はクラシック音楽を聴いている時のものとほぼ同様であると脳波計で評価されたというものでした。

1984年、「クローズアップ」では、「針の効果をとらえる」「解明すすむ東洋医学の謎」というタイトルで中田薫氏の司会で佐藤道夫氏（東京都老人総合研究所）の研究を紹介。

針刺激の作用をサーモグラフで血液循環改善、ウギに針刺激をする実験で毛細血管が1.5倍に広がることやボジトロムCTで針刺激により自律神経に関与している間脳の血行が改善されることを映像で紹介していました。

現代は、高橋徳氏（医師）が四肢にハ刺激をすると脊髄視床路から脳に刺激が伝わる過程で、延髄で自律神経、中脳でホイト、視床下部でギンソに作用することを米国での研究発表をされています。ホイトは痛みに、ギンソはストレスに対応するメカです。

永田勝太郎氏（医師）は、ストレスによる生体消耗状態から針刺激は生体を修復する効果があると発表されています。

また、堀田晴美氏（東京都老人総合研究所・研究副部長・師は佐藤道夫氏）は針の皮膚刺激による脳血液循環改善を発表されています。

菊池臣一氏（福島県立医科大学学長・整形外科医）は腰痛の80%は器質的変化がなく心理的・社会的・身体的ストレスによる筋肉の緊張が原因となると発表されています。

…次回（回復力・復元力）に続く。